

第5次基本計画策定専門調査会 第3回安全・安心ワーキンググループ
議事要旨

日 時 令和2年4月27日（月）

（議事次第）
意見交換

（配布資料）

- 参考資料1 第4次男女共同参画基本計画抜粋（安全・安心WG関連）
- 参考資料2 第4次男女共同参画基本計画の達成状況（安全・安心WG関連）
- 参考資料3 第4次男女共同参画基本計画における成果目標の動向（安全・安心WG関連）
- 参考資料4 男女共同参画の現状（安全・安心WG関連）

（全体の議事の概要）

「生涯を通じた女性の健康支援」「女性に対するあらゆる暴力の根絶」「貧困、高齢、障害等により困難を抱えた女性等が安心して暮らせる環境の整備」に記載する内容について、書面により意見交換を行った。

（意見交換）

1. 生涯を通じた女性の健康支援について

- ・ 冒頭の基本認識に、健康課題解決には背景となる社会課題の解決が求められる旨が記載されていることは、とても良い。
- ・ 女性就業率の高まりを踏まえて、職域での女性の健康支援を確実に実施できるようにするために産業医及び産業保健スタッフの育成を進めるべき。
- ・ 女性の健康に関する科学的に正しい情報については、行動科学等の専門家の知見も活用し、効果的に周知していくべき。
- ・ 女性医師の更なる活躍に向けて、保育サービスが利用できないことなどキャリアを制約する要因をすべて取り除く必要がある。
- ・ 小児・思春期から健康な心身の形成が生涯にわたる健康に影響を与えるという成育医療の視点から、科学的エビデンスに基づいた前思春期からの健康教育を充実させる必要がある。
- ・ 医療分野にもハラスメントやアンコンシャス・バイアスが存在する。部下育成やキャリア形成への支援がなされないことで、女性医師の能力が発揮されていない状況がある。女性医師の活躍には、慢性的な医師不足や主治医制による過重労働、長時間労働を是正することが必要。
- ・ 薬物の問題は若年層だけではない。摂食障害、アルコール依存、薬物依存、

ショッピング依存などのアディクションは、女性に多いものと男性に多いものがある。アルコール依存症については、アルコールへの耐性が低い女性の方がなりやすい。女性は社会的なスティグマによって援助を求めにくいこと、性暴力などによるトラウマへの一種の自己治療としてアルコールや薬物依存になることなどを理解する必要がある。

2. 女性に対するあらゆる暴力の根絶について

- ・ 配偶者等からの暴力の被害者に対する支援については、被害者支援の基礎となる統計や調査について検討し、中長期的な支援ニーズも含めて、被害者のニーズを把握すべき。
- ・ 日本で暴力の加害者プログラムを本格実施していくためには、加害者をプログラムにつなげる何らかの方法も併せて考えていかなければならない。例えば、諸外国での取組例を調査し、実施に向けた検討を行ってはどうか。
- ・ 婦人保護事業の見直しに基づく新たな制度の構築に当たっては、実態を的確に把握せずに効果的な政策を作ることとはできないと考えるため、行政、有識者、民間団体等の関係者が連携し、実態把握を進めるべき。
- ・ 性的な暴力を受けた子供の相談・支援等について、最初に性的虐待の被害を打ち明けられる可能性がある保育士、教師などの子供に関わる大人に適切な初動対応を啓発しておくことで、円滑な相談につなげることや子どもへのダメージの軽減ができるのではないか。

3. 貧困、高齢、障害等により困難を抱えた女性等が安心して暮らせる環境の整備について

- ・ 分野名について、全体を「貧困等」で括ることは、障害をもつ女性、外国人女性、アイヌの人々、同和問題などの人権問題が貧困問題に抱合されるように見えかねない。関連はあるものの、「貧困」と「高齢者、障害者、外国人等」は内容的にイコールではないので分けて考えるべき。
- ・ 分野名は、「多様性の受容（ダイバーシティ）」に着目してはどうか。例えば、「多様性を高めるための環境の整備」などはどうか。
- ・ 外国人が安心して暮らせる環境の整備に向けて、外国人を支援する団体等に集まる情報を把握して政策に活かしていくべき。
- ・ 母子父子寡婦福祉資金貸付において運用上の課題が見受けられる。貸付要件の見直しや申請手続きの簡略化など、運用上の課題解決が必要である。

以上